

こくえい き そ さん せんこうえん

# 国営木曾三川公園

## 説明資料

平成26年8月4日

国土交通省中部地方整備局  
木曾川上流河川事務所  
木曾川下流河川事務所

# 目次

1. 事業の概要	.....	1
2. 評価の視点	.....	3
1) 事業の必要性等に関する視点		
(1) 事業をめぐる社会経済情勢等の変化		
(2) 事業の投資効果		
(3) 事業の進捗状況		
3. 費用対効果	.....	9
4. 事業の進捗の見込みの視点	.....	10
5. コスト縮減や代替案立案の可能性の視点	.....	11
6. 県への意見聴取結果	.....	11
7. 対応方針(原案)	.....	11



# 事業の目的及び計画内容 「国営木曾三川公園基本計画」基本理念

## 【国営木曾三川公園が目指すもの】

### 自然環境への理解のために

- 河川特有の自然環境や生物多様性の保全・再生
- 木曾三川の豊かな自然や長大な河川空間を体験し、川や環境について学ぶ取り組み
- 国営木曾三川公園ならではの屋外活動の場の提供



### 歴史文化への理解のために

- 木曾三川にまつわる歴史文化やその周辺環境の保全・活用
- 木曾三川の歴史文化や人と川との関わり大切さを学ぶ取り組み



### 広域への貢献のために

- 木曾三川の空間・自然・歴史文化資源のネットワーク形成、中部圏の骨格的緑地・河川
- 人々の広域的な交流の促進、にぎわいの創出、情報発信
- 地域の防災への協力、広域的な防災への対応



## 【取り組みを進めるために】

### より多くの人々が、より楽しむ (レクリエーションの視点)

- 利用者サービスやレクリエーション内容の向上
- 自然や歴史文化に触れるきっかけの提供
- 利用者の安全確保とユニバーサルデザイン

### より深め、より広げる(参加と連携の視点)

- プログラムの開発提供、指導者の育成
- 多様な主体との参画と協働
- 地域のまちづくりとの連携
- 公園の整備運営のモデルとなる取り組み

## 2. 評価の視点

### 1) 事業の必要性等に関する視点

#### (1) 事業を巡る社会経済情勢等の変化

- ◆公園の周辺地域の人口は平成17年以降は1,100万人程度で推移しており、将来も同様に推移する見込みです。
- ◆国民のレジャー・余暇生活へのニーズや社会における結びつきが大切だと考える人の割合が高い水準にあります。
- ◆生物多様性の保全に対する意識も向上しており、人の生活がある程度制約されても、多種多様な生物が生息できる環境の保全を優先する傾向にあります。

#### 【周辺地域の人口】

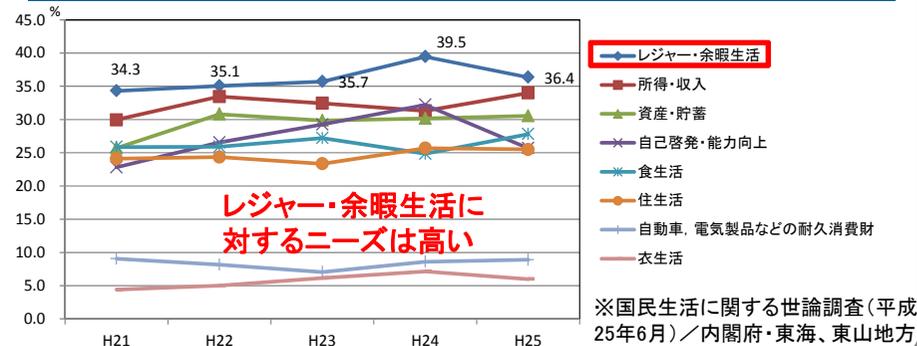
##### 国営木曾三川公園に接する県の人口推移

県	人口(人)、[ ]は人口比(平成17年=1として)			
	国勢調査報告 人口		推計人口	
	平成17年	平成22年	平成26年5月※1	平成37年※2
岐阜県	2,107,226 [1.00]	2,080,773 [0.99]	2,044,416 [0.97]	1,907,818 [0.91]
愛知県	7,254,704 [1.00]	7,410,719 [1.02]	7,437,337 [1.03]	7,348,135 [1.01]
三重県	1,866,963 [1.00]	1,854,724 [0.99]	1,822,055 [0.98]	1,714,523 [0.92]
計	11,228,893 [1.00]	11,346,216 [1.01]	11,303,808 [1.01]	10,970,476 [0.98]

※1: 岐阜県、愛知県、三重県人口動向調査結果(月報)  
 ※2: 国立社会保障・人口問題研究所(平成25年3月推計)

#### 【レジャー・余暇生活のニーズ】

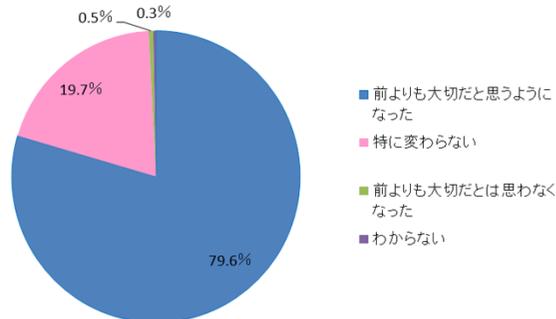
##### 今後の生活の力点



#### 【社会意識の変化】

##### 社会における結びつきの意識変化

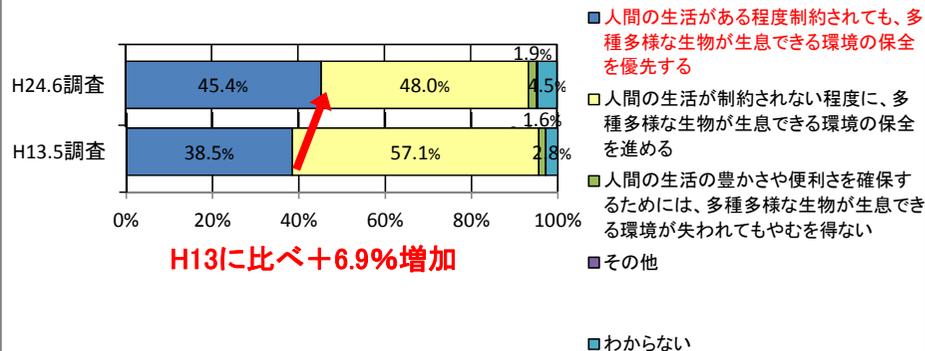
東日本大震災前と比べて、社会における結びつきが大切だと思うようになった方の割合が約8割を占める。



※社会生活基本調査(H24.1、内閣官房政府広報室)

#### 【生物多様性の保全に対する意識の向上】

##### 生物多様性の保全のための取組に対する意識



## (2) 事業の投資効果

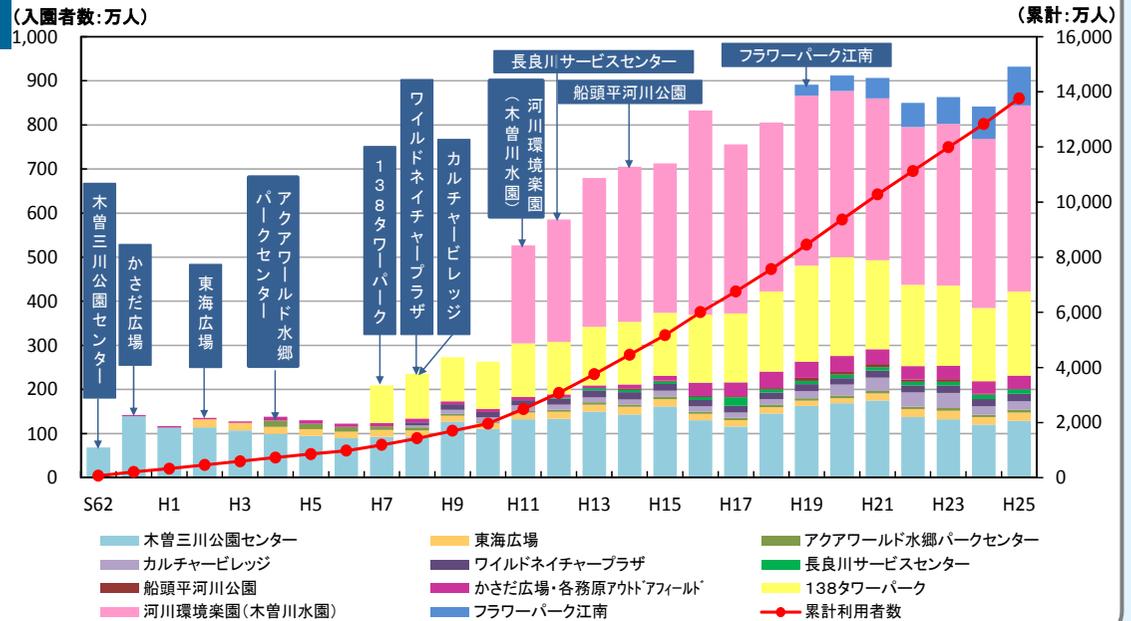
- ◆ 供用開始から累計約1億3千万人以上(平成25年度末)の方々に利用され、近年は900万人前後の方に利用いただいています。このうち、上流域の河川環境楽園、138タワーパークの利用者が約6~7割を占めています。
- ◆ 公園周辺からの利用の他、名古屋市や岐阜市を中心に、広域からの利用も多く、かつ高い利用満足度をいただいています。

### 【利用状況】

国営木曾三川公園年間入園者数の推移

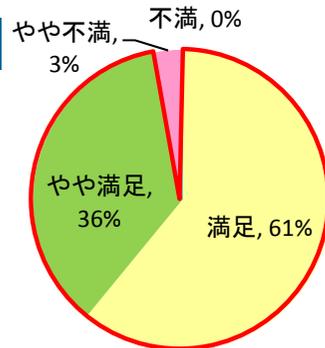
	平成23年度	平成24年度	平成25年度
年間利用者数	約863万人	約842万人	約934万人
累計	約11,988万人	約12,829万人	約13,763万人

単年度利用者数及び累計利用者数の推移

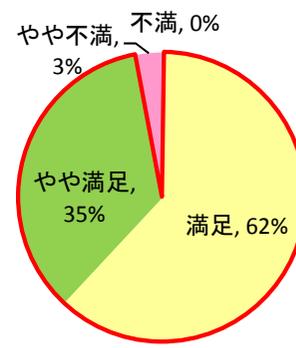


### 【利用者の評価】

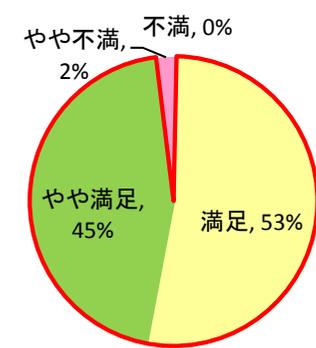
自然や緑の豊かさ



清潔さ、清掃状態の良さ



スタッフの対応、サービスの良さ



国営木曾三川公園  
利用実態調査  
(平成23年度~25年度(合計))

## (2) 事業の投資効果

- ◆ 自然環境の理解のために、川や環境について学ぶ多様な学習プログラムを提供しており、平成25年度には延べ約38,000人の利用がありました。
- ◆ 木曾三川の歴史文化や人と川との関わり大切さを学べる木曾三川公園センターは、社会学習の場として利用されています。

### 【自然環境への理解】

多様な学習プログラム

対象	プログラム	平成25年度実績
団体	クラフト系プログラム、観察系プログラム、ワークショップ系プログラム等	368回、13,327名
一般	環境教育講座、プロジェクト・ワイルド系プログラム、パークセンター自然体験	991回、24,326名
合計		1,359回 37,653名

#### 【川や環境について学ぶ学習プログラム実施例】



ハーブの石けんづくり



川を汚したのは誰？



公園の宝ものさがし



ネイチャーハント

### 【歴史文化への理解】

木曾三川の歴史文化などを学べる場

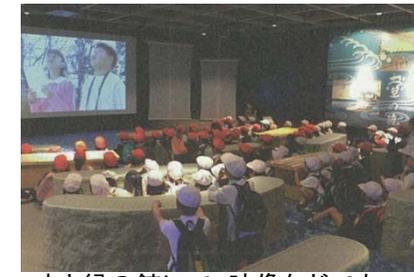
	学校数				生徒数
	小学校	特別支援	中学・高校	幼・保育園	
計	355	6	1	24	23,638

※平成25年度実績

#### 【社会学習の事例】



展望タワーから、木曾三川が合流する地形や自然、人々の営みを眺望、



水と緑の館にて、映像などで木曾三川にまつわる歴史・風土等を紹介



水屋と呼ばれる輪中地帯独特の建物を見学

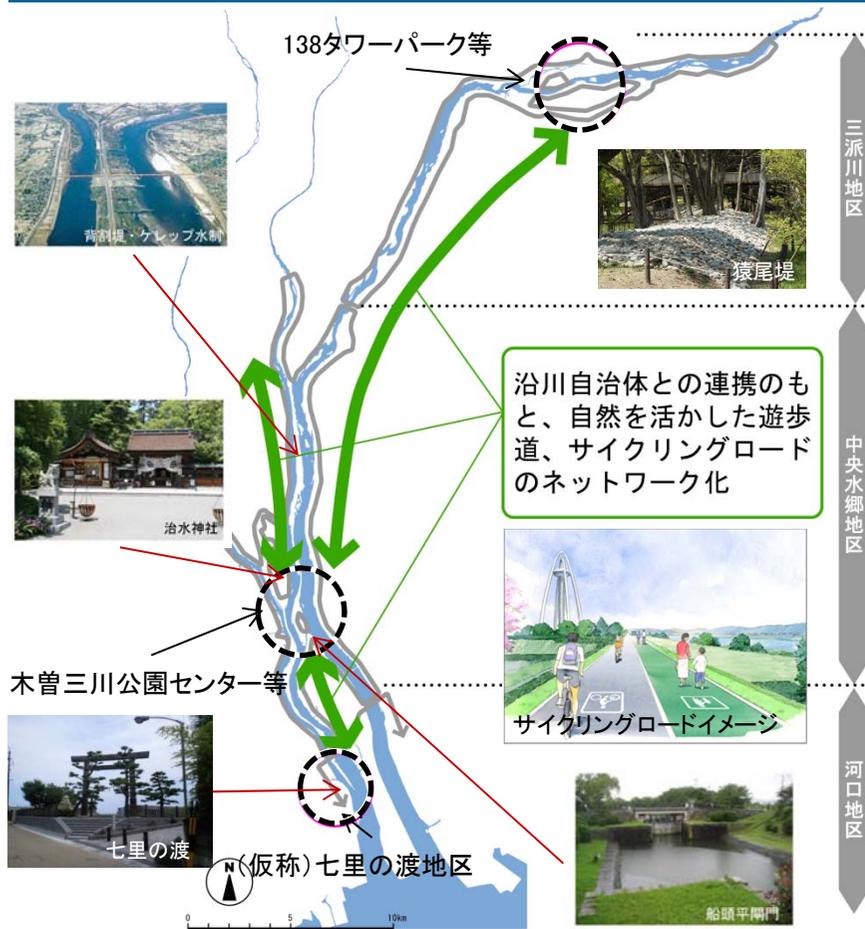


## (2) 事業の投資効果

- ◆遊歩道・サイクリングロードのネットワーク整備により、木曾三川の空間・自然・歴史文化資源のネットワーク形成を図っています。
- ◆公園を活用した防災関係のイベントや防災訓練などを通じて、災害時の周辺地域の被害軽減や広域的な防災への対応に寄与しています。

### 【広域への貢献】

#### 遊歩道・サイクリングロードのネットワーク化



遊歩道・サイクリングロードのネットワーク整備により、地域と連携

#### 広域的な防災への対応等



避難地となる芝生広場  
(木曾三川公園センター)



広域支援基地の設置訓練



地震の体験



消防隊と遊んで学べる防災の日

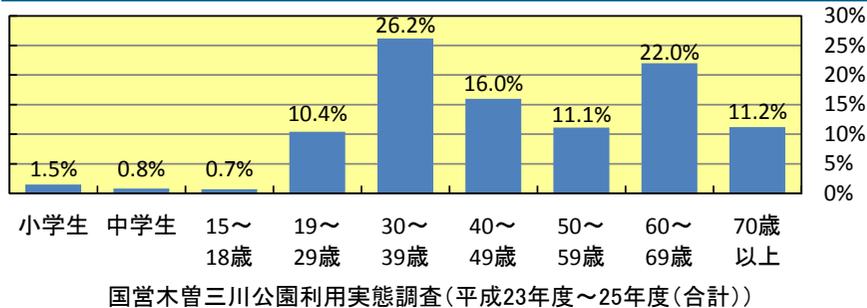
避難地や防災拠点としての施設整備と防災訓練の実施により周辺地域の防災性が向上

## (2) 事業の投資効果

- ◆沿川自治体との共催による大規模イベントを多数開催し、スポーツやレクリエーションを楽しめる場を提供するとともに、利用者サービスやレクリエーション内容の向上に努めています。
- ◆市民ボランティアによるガイドの提供など多様な主体の協働により、様々なサービスを来園者に提供しています。

### 【レクリエーション】

利用者の年齢層分布



幅広い年齢層の方々の利用

イベントの開催実績(平成25年度)

#### イベント開催

年間291件、延べ約498万人  
(期間中参加者数の合計)

※マスコミ報道:年間2,475件  
(新聞674件、テレビ571件、ラジオ・雑誌等1,230件)



世界ボート選手権



トライアスロン大会

(長良川サービスセンター)

様々な方々がスポーツやレクリエーションを楽しめる場の提供

### 【参加と連携】

ボランティアによるガイドの提供

#### ●フィールドガイド



(河川環境楽園・自然発見館)

市民ボランティアとの協働



「ガーデナー倶楽部」による活動  
(花壇の維持管理)

市民発案の多様なイベントの実施



パン作り

平成25年度のボランティア活動状況  
活動回数:3,589回、延べ活動者数:6,314人  
延べ参加人数:33,855人

### (3) 事業の進捗状況

- ◆事業の進捗率は77%に至っています。(事業費ベース・平成26年度末見込み)
- ◆平成26年3月末時点の供用面積は約258ha(11拠点)で、全体事業面積に対する整備率は55%となります。
- ◆今後は、拠点間のネットワーク化に向けた「(仮称)桜堤サブセンター・木曾長良背割堤」、「(仮称)大江緑道」、「(仮称)七里の渡地区」等の整備を進めていきます。



# 3. 費用対効果

- ◆事業全体に要する総費用(C)は約1,804億円であり、この事業によりもたらされる総便益(B)は約6,887億円となります。これを基に算出される費用対便益比(B/C)は約3.8となります。
- ◆平成26年度以降の残事業に要する総費用(C)は約221億円であり、この事業によりもたらされる総便益(B)は241億円となります。これを基に算出される費用対便益比(B/C)は約1.1となります。

## 費用対効果分析

	全体事業	残事業※2
費用対便益比	3.8	1.1
総便益(B)※1	約6,887億円	約241億円
	直接利用価値	約155億円
	間接利用価値	約86億円
総費用(C)※1	約1,804億円	約221億円
	事業費	約154億円
	維持管理費	約67億円

※1 便益・費用は現在価値化した値である

※1 便益・費用は整数値としており、合計値は表示桁数の関係で計算値と一致しないことがある

※2 未供用区域において事業を継続した場合に追加的に必要となる総費用と、追加的発生する総便益を対象として計上

### ○算出条件等

- 計算基準年 : 平成26年度
- 評価期間 : 50年間 (昭和62年度～平成48年度)
- 社会的割引率 : 4%

## 感度分析※3

	全体事業 (B/C)	残事業 (B/C)
需要 (-10%~+10%)	3.7~4.0	1.0~1.2
事業費 (+10%~-10%)	3.8~3.9	1.0~1.2
事業期間 (+10%~-10%)	3.8~3.8	1.1~1.1

※3 都市公園事業の影響要因として考えられる需要(公園利用者数及び世帯数)、事業費、事業期間を±10%変動させた場合のB/Cを算出

(「改訂第3版大規模公園費用対効果分析手法マニュアル」(平成25年10月 国土交通省都市局公園緑地景観課)に基づき算出)

# 4. 事業の進捗の見込みの視点

- ◆国営木曾三川公園基本計画に基づき、公園全体のネットワーク化に必要な整備を中心に事業を進めていきます。
- ◆地元の協力体制のもと、地域と連携を図りながら進めており、今後の事業実施にあたり大きな支障はないと見込んでいます。

## 今後の主な整備予定(平成37年度まで※)

### (仮称)大江緑道

水郷地帯の趣を残す大江川の景観と水辺の自然とのふれあいを楽しめる場として整備を進め、遊歩道などにより拠点及び周辺地域の自然環境、歴史文化遺産などを結び、広域的な利用空間のネットワーク化を早期に図ります。



大江緑道整備イメージ



### (仮称)桜堤サブセンター ・木曾長良背割堤

三派川地区と中央水郷地区を結ぶ重要な拠点であり、緑豊かな水辺環境と木曾三川にまつわる歴史文化遺産(ケレップ水制等)に触れられる場としての整備を進め、木曾三川全体をつなぐ利用空間のネットワーク化を早期に図ります。



桜並木整備イメージ

### (仮称)七里の渡し地区

木曾三川の歴史文化資源のネットワークの拠点の一つとして整備を進め、川とまちが一体となり、東海道の要衝「七里の渡し」をはじめ、川沿いに集積する歴史文化遺産を結び、木曾三川を軸とした交流と反映の歴史を紹介する情報発信拠点となる公園の早期開園を目指します。



七里の渡し

「七里の渡し」は、慶長6年に制定された東海道のうち、品川から大津までの「東海道53次」の41番目の熱田宿と42番目の桑名宿を海上七里で結ぶ渡しの渡船場でした。

## 5. コスト縮減や代替案立案の可能性の視点

### コスト縮減

- ◆事業実施の各段階において、工法の工夫や新技術の採用等により、コスト縮減に努めています。また、地域連携や民間の創意工夫等により、利用者の満足度の高い、かつ効率的な管理運営に努めます。

### 代替案立案の可能性

- ◆国営木曾三川公園は、学識者や関係機関代表などから成る「国営木曾三川公園基本計画改定委員会」でのご議論、及びパブリックコメントを通じ一般の方々からも広くご意見をいただきながら策定した『国営木曾三川公園基本計画』に基づいて事業を実施しているものであり、計画策定以降事業を巡る社会経済情勢等が大きく変化していないことから、計画に基づく公園事業が最も適切であると考えます。

## 6. 県への意見聴取結果

### ◆岐阜県

対応方針(原案)のとおり、事業継続について異存ありません。

なお、今後の事業実施にあたっては、整備内容及び事業費などについて実施前にご説明いただくとともに、新技術の活用を含めてコスト縮減の徹底をお願いします。

### ◆愛知県

1 「対応方針(原案)」に対して異議はありません。

2 本事業の投資効果をより一層高めるため、公園の管理・運営においては、周辺地域との連携を図り、さらなる利用促進に努めてくださるようお願いしたい。

3 なお、事業実施にあたっては、一層のコスト縮減など、より効率的な事業推進に務められるようお願いしたい。

### ◆三重県

本事業は、木曾三川が有する広大なオープンスペースを活用して設置された、うるおいとやすらぎのある生活の実現に資する重要な公園整備事業です。

今後も引き続き、本県と十分な調整をしていただき、平成20年度に着手された七里の渡地区の早期供用に向けて事業を確実に推進いただくとともに、当該公園のさらなる利用促進につながる管理運営の実施をお願いいたします。

## 7. 対応方針(原案)

- ◆国営木曾三川公園基本計画に基づいて実施する公園事業を継続する。